

**第12期
2022年1月期
定時株主総会**

**2022年4月27日
丸善CHIホールディングス株式会社**

事業報告

事業環境

事業環境：新型コロナウイルス感染症の影響



- 電子図書館・電子書籍は前期に引き続き堅調に推移
- 書店事業も上期は回復傾向で堅調に推移するも、下期は第5波・第6波の影響を受ける
- コロナ禍において、業務効率化を更に推進

当期主要戦略テーマごとの取り組み

I. 学びとともに生きる 社会への取り組み

電子図書館システム
導入促進



II. 地域創生への貢献



III. 新しい書店収益 モデルの創造

セルフレジの導入



地域ごとのニーズに
マッチした地域活性化
への取り組み

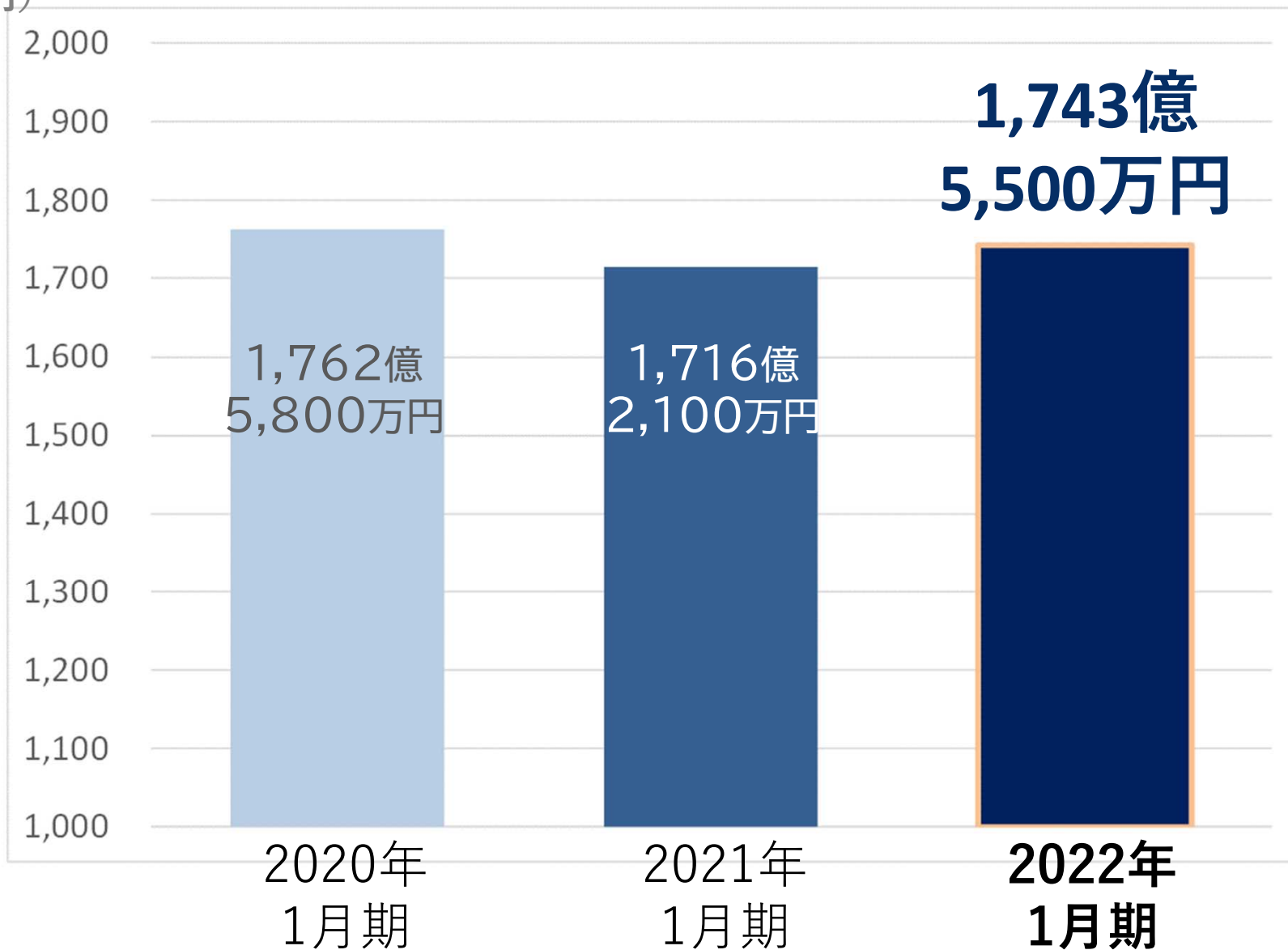


新規業態店の
開発

事業報告

2022年1月期 業績

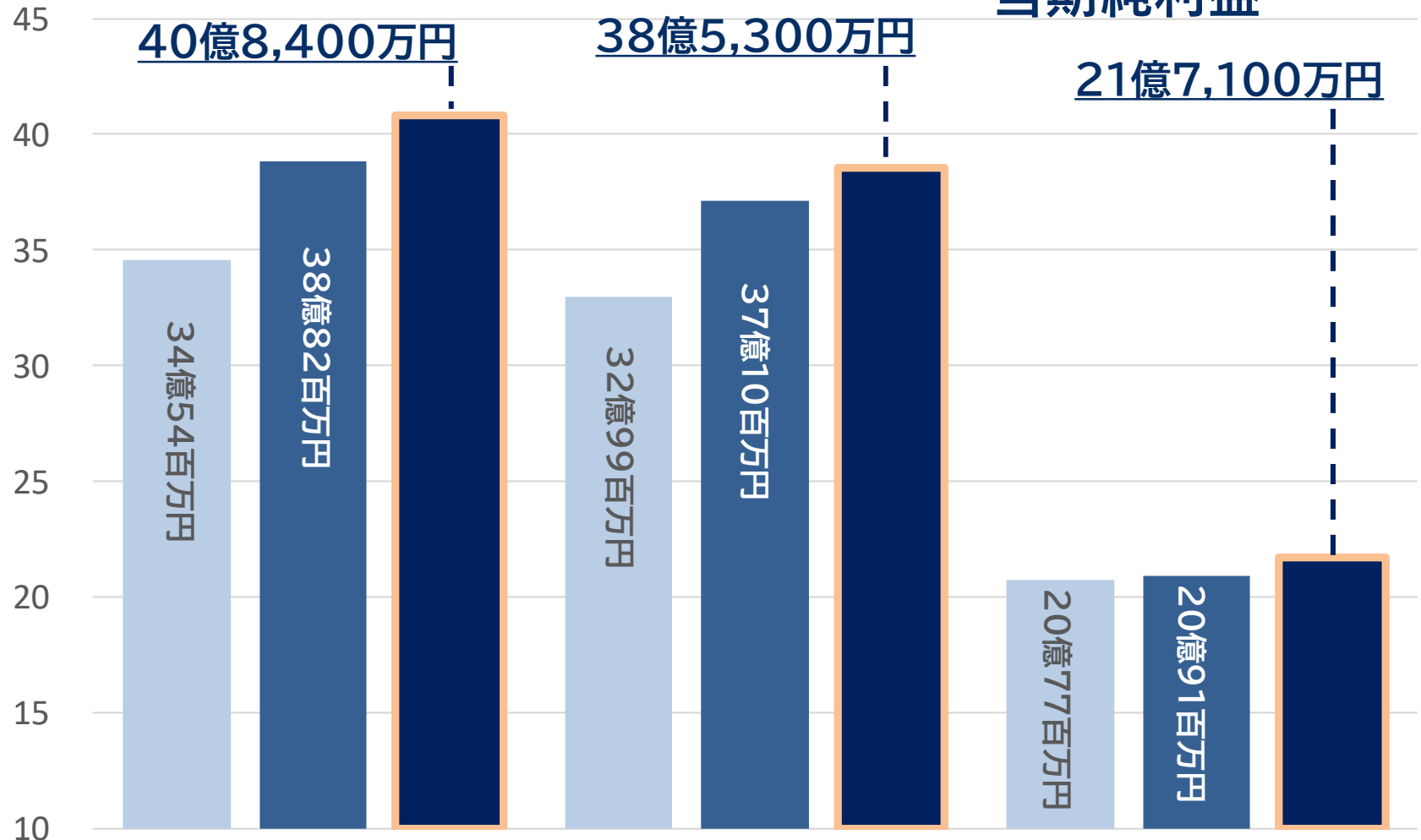
(億円)



営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する 当期純利益



(億円)

2020年1月期

2021年1月期

2022年1月期

事業報告

2022年1月期 セグメント概況

当社グループの事業分野

5つのセグメントで事業展開

丸善CHIホールディングス株式会社

店舗・ネット
販売事業

(株)丸善
ジュンク堂
書店

出版事業

丸善出版
(株)

文教市場
販売事業

図書館総合
研究所

岩崎書店

図書館サポート
事業

(株)図書館流通センター

丸善雄松堂(株)

その他事業

図書館流通

明日香

グローバルリニュー
ンサービス

第一鋼鉄工業所

編集工学研究所

売上高

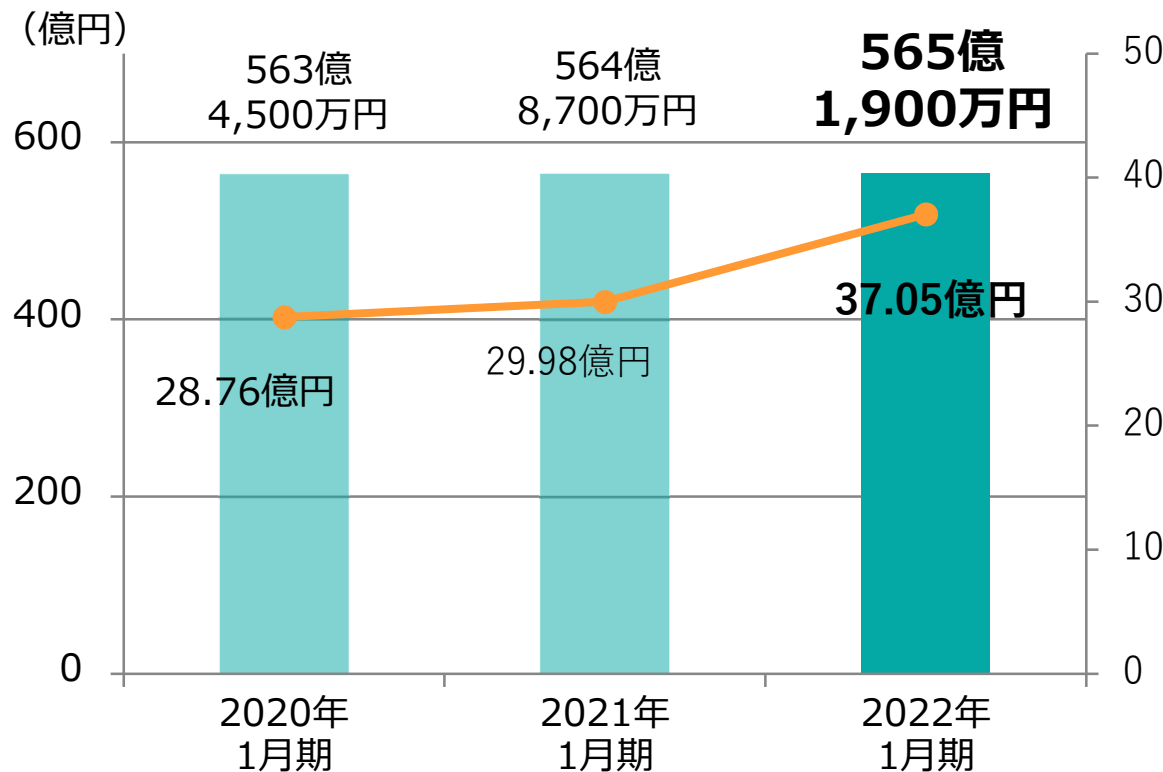
565億1,900万円

対前年 + 3,100万円

営業利益

37億500万円

対前年 + 7億700万円



当期の概況

- 公共図書館向け電子図書館、大学向け電子書籍の売上が堅調に推移
- 大学向け販売事業の効率化により販管費削減

增收增益

売上高

698億2,400万円

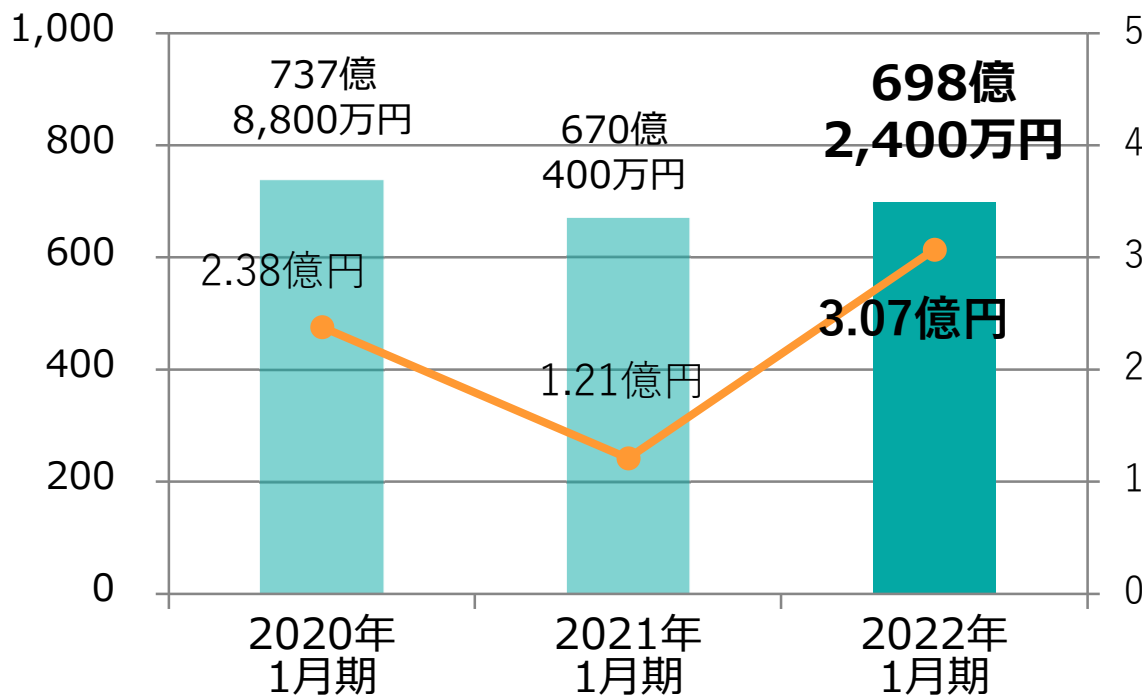
対前年 + 28億1,900万円

営業利益

3億700万円

対前年 + 1億8,500万円

(億円)



当期の概況

- コロナ禍でも休業・時短営業は前期に比べ限定的であった
- セルフレジ導入などIT活用による業務効率化をさらに進めることで収益体質を強化

増収増益

図書館サポート事業

- ・業務受託：カウンター業務、目録作成、蔵書点検等
- ・運營業務：指定管理者制度、PFI（民間資金等活用事業）

売上高

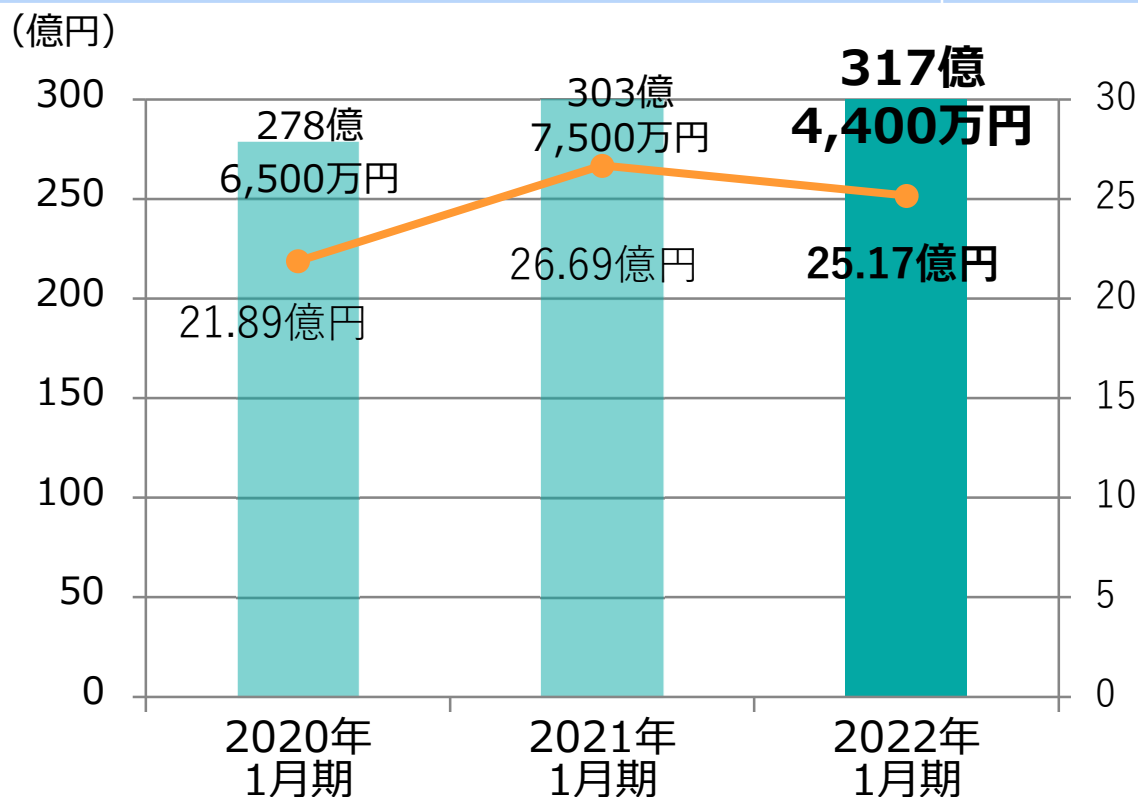
317億4,400万円

対前年 + 13億6,900万円

営業利益

25億1,700万円

対前年▲1億5,200万円



当期の概況

- 安全・安心に利用できるよう感染防止対策の徹底により、コロナ影響少
- 図書館受託館数21館増加し1,697館
- 図書館設備の整備作業が遅れ、コスト発生が当期期初の2・3月に集中し経費増

増収減益

売上高

42億5,100万円

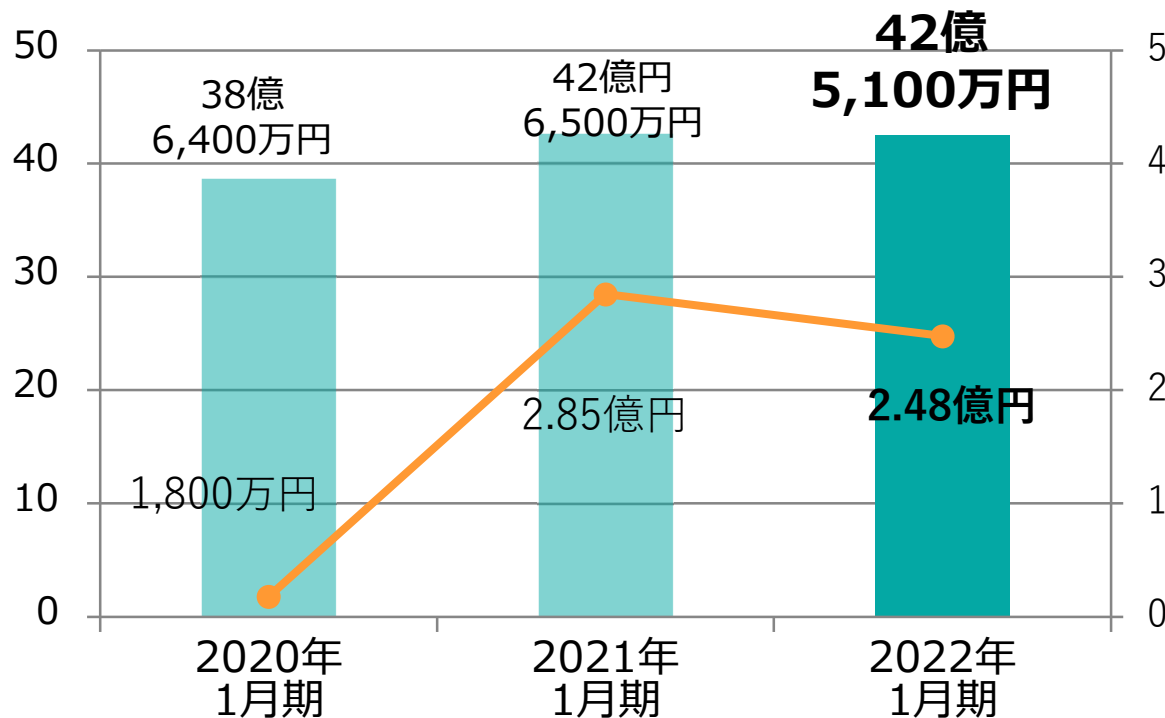
対前年▲1,400万円

営業利益

2億4,800万円

対前年▲3,700万円

(億円)



当期の概況

- 教科書は比較的順調
- 新刊刊行遅延の影響
- 児童書分野及び専門書分野あわせて244点刊行（前期は246点）

減収減益

グローバルソリューションサービス(株)

- Apple製品他スマートフォン・PC等修理サービス

(株)明日香

- 総合保育サービス / 保育園・託児所運営業務請負

丸善雄松堂(株)ショップ・システム・プロデュース事業部

- 書店、中古書店ほか店舗向け什器・内装・デザイン

(株)編集工学研究所

- 編集工学を応用したコンサルティング、教育・研修事業

その他事業

売上高

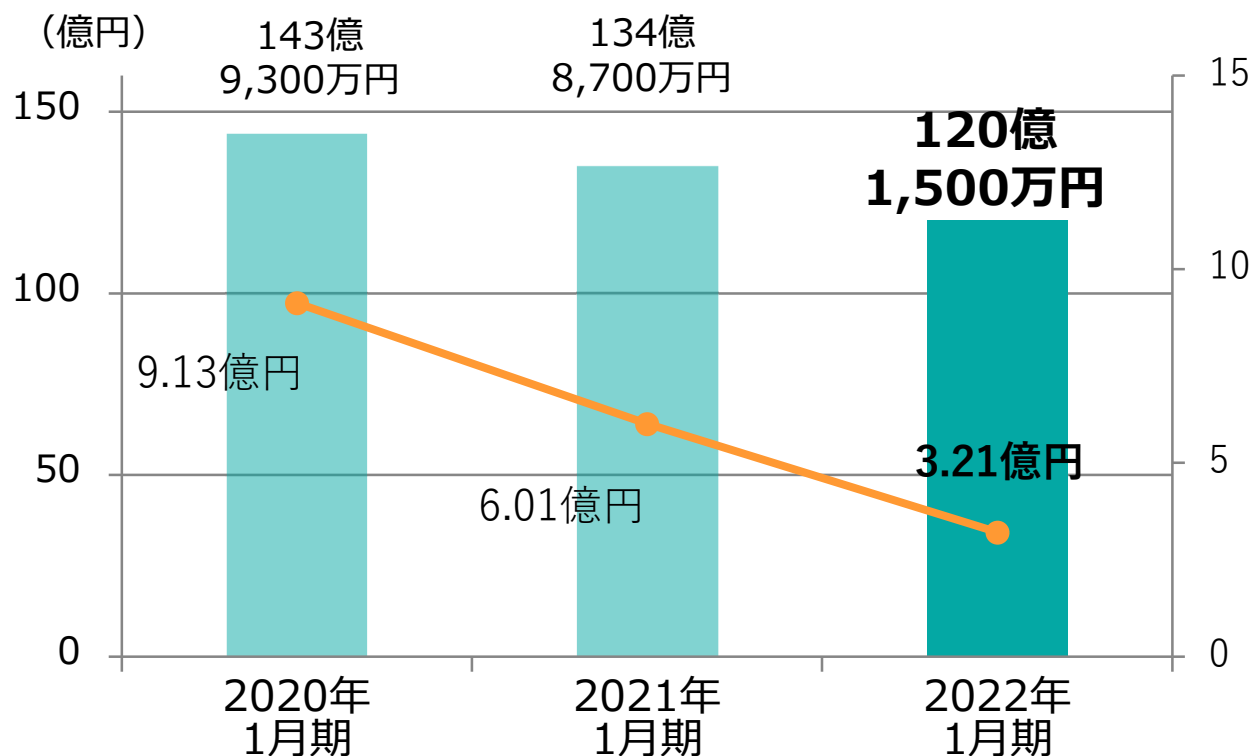
120億1,500万円

対前年▲14億7,200万円

営業利益

3億2,100万円

対前年▲2億8,000万円



当期の概況

- 総合保育事業は堅調に推移
- 店舗内装業において顧客の投資意欲が戻らず、出店・改装案件ともに減少

減収減益

**その他の事業報告につきましては
お手許の招集ご通知の添付書類
18ページ から 33ページ を
ご覧くださいますよう
お願い申し上げます
なお、対処すべき課題については
後ほど当期の取り組みとともに
ご説明いたします**

◆ 連結貸借対照表

招集ご通知 添付書類 34ページ

◆ 連結損益計算書

招集ご通知 添付書類 35ページ

◆ 連結株主資本等変動計算書および 個別計算書類

招集ご通知 添付書類 36ページ～39ページ

ご高覧くださいますよう
お願い申し上げます

対処すべき課題

コロナによる行動変容
Withコロナ

世界情勢不安定
資源価格高騰

人生100年時代
学び方・働き方の変化

SDGsへの関心

5G・DXなど
急速な進展
メタバース・AI…

これまで3つの主要戦略テーマのもと、生活者の知的文化的生活に貢献する新たな付加価値を創造するための取り組みを進めてきた
2023年1月期についても引き続き以下の主要戦略に取り組む

I. 学びとともに生きる社会への取り組み

II. 地域創生への貢献

III. 新しい書店収益モデルの創造

I. 学びとともに生きる社会への取り組み

**人生100年時代、高齢化、IT化が進み、
学びや働き方が大きく変化していく**

より幅広い世代に、
広範な知識や技能を身につける機会が
必要となる

**そのような社会と個人にとって
必要となる学びのための
コンテンツや仕組みを提供**

① 学び続ける社会に向けた、 学びのプラットフォームづくり

大学等における学び直し講座情報や学び直し支援制度情報を発信するポータルサイト「マナパス」を受託開発・運営

- 丸善雄松堂が文部科学省「社会人の学びの情報アクセス改善に向けた実践研究」事業として受託
- 5,000件以上の講座を掲載するほか、リアルな場での情報発信、社会人との多様な接点の創出など様々な活動を実施

マナパス
社会人の大学等での学びを応援するサイト

マナパス
社会人の学びを応援するサイト

！目的別 マナパス利用ガイド！

- 学びのモデルを見つけよう
在学生・修了生インタビューを読みたい方はこちら
- 実践的なプログラムから探そう
実務に直結するプログラムをお探しい方はこちら
- 学費等の支援がある講座を探そう
奨学金や教育訓練給付金の対象のプログラムはこちら
- 最新のトピックから選ぼう
特集記事から関連する講座を探したい方はこちら

②ICTを活用し、コロナ禍においても 教育の質を支える仕組みを提供

オンライン授業・講座に関する、案内や教材の配布、出欠管理などの多様な管理機能を一元的に提供するシステム
「オンラインアカデミー」をリリース

- 丸善雄松堂、大日本印刷、BIPROGY（ビプロジー；旧日本ユニシス）が共同で開発
- コロナ禍で増加するオンライン授業の効率的運営を支援
- 授業準備から配信、学習進捗までを一貫して講座管理できる、遠隔学習支援システム

□受講者画面の一例（講座詳細画面）

「参加する」ボタンを押下してオンライン授業へ参加することができます。
（各教材にもアクセス可能）

The screenshot displays the 'Online Academy' interface. At the top, there is a navigation bar with 'ホーム', '講座申込状況', 'ラーニング', 'テスト', 'アンケート', and '講師'. Below this is the '講座情報' (Lecture Information) section for '経済学史(demo0002)'. It includes buttons for '受講予定' and 'そのほかの開発予定'. A table lists the lecture details:

キャンセル方法	受付	開講番号	開始日	終了日	開講場所	講義時間	申込数/定員	申込締切日
	受講予定	01	21/04/27	21/06/30			0/-	

Below the table is the '教材' (Materials) section with another table:

種類	教材名	ステータス	実施期間
ラーニング	経済学史_アーカイブ録音資料	準備中	21/06/01 - 21/12/15 00:00
	経済学史_資料	準備中	
課題	経済学史_事前課題	準備中	21/06/01 - 21/06/30 10:00

A callout box on the right shows a 4x4 grid of 16 participant avatars, representing the lecture session.

③ デジタル化時代に則した 新しいサービスの提供

富士山マガジンサービスと連携した「TRC-DLマガジン」 の実証実験を実施（2022年4月1日正式リリース）

- 2021年3月に資本業務提携した富士山マガジンサービスのプラットフォームを活用した「TRC-DLマガジン」の実証実験を実施
- 「LibrariE & TRC-DL」を導入している図書館が、オプションで利用できる電子雑誌読み放題サービス
- 105タイトル、1,020冊で正式リリース全文検索機能を備える



TRC-DLマガジン



Ⅱ. 地域創生への貢献

人口減少社会の中で地域創生は
これからの日本の大きな課題

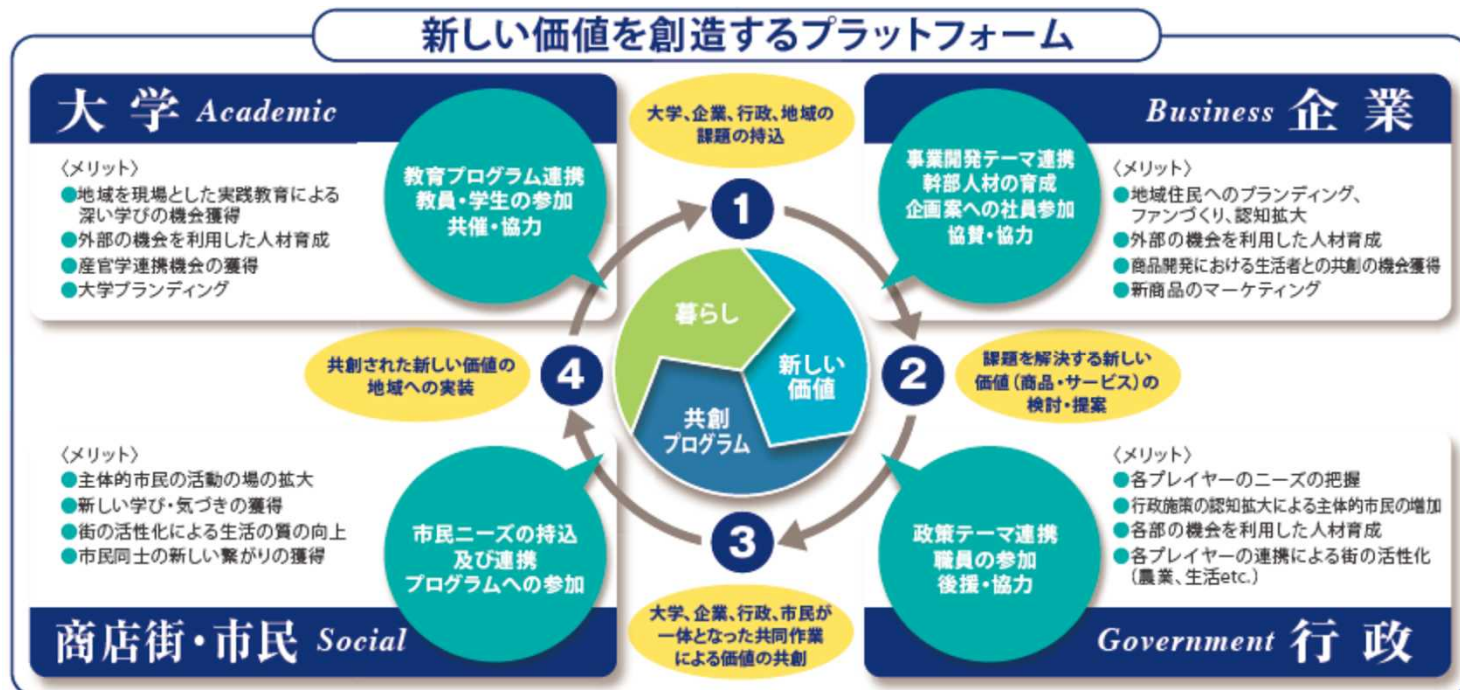
地域ごとの暮らしを、どのように
豊かなものにしていくかが、
求められていく

これまで培った図書館運営や、
学習環境づくりのノウハウを活用し
地域創生事業を拡大

Ⅱ. 地域創生への貢献

① 地域社会の活性化に貢献する プラットフォームづくりの推進

自治体、企業、大学、住民がつながり、地域社会が活性化するプラットフォームづくりを、当社グループで連携して推進している



② 善通寺市立図書館

図書館だけでなく、他公共施設との連携により、暮らしとコミュニティを支えるサービス提供を充実

- 丸善雄松堂と図書館流通センターの共同事業体で入札受託
2022年1月開館
- 図書館運営業務受託のほか、内装・什器工事、子育て支援施設運営、イベント運営を包括的に受託
- とくに子育て世代や若者の多様な知的な好奇心や学習意欲に応えることで、地域活性化に貢献していく



Ⅲ. 新しい書店収益モデルの創造

店舗・ネット販売事業では
業務の効率化、集客力や品揃えの
向上などで黒字に転換

**コロナ禍により
生活者の行動様式が変容**

変化に対応した取り組みで
さらなる収益体質の強化へ

① 魅力ある業態化店舗の創出

丸の内本店に絵本と雑貨の複合新業態「EHONS」を開店

- 書籍市場が厳しい中、絵本とそのグッズを同時に展開し、絵本の世界観を表現していくことで、30～40歳代女性の絵本ファンを掴む
- 買いやすい文具アイテムからここにしかないオリジナル商品も開発し、ライト層からコアファンまで訴求できる品揃えで好評を得ている



②ICTを活用した効率化の推進

非接触型含めセルフレジ導入を拡大 当期13店舗31台（+7店、+13台）の導入

- セルフレジ導入で、年間33,000時間の時間削減効果を創出
- その他、科学的な知見に基づいた入荷業務の効率改善、タブレット端末を用いた効率化等も合わせ、年間23万時間短縮の効果
- 残業時間の削減や、より付加価値の高い業務への転換など効果を発揮
- 引き続き収益体質改善に取り組む



IV. 戦略テーマを促進するための新規事業開発

書籍コンテンツの電子化の拡大

DX・5Gなどデジタル技術の急速な進展

コロナ禍を経た生活者の行動変容

デジタル化時代の変化の中でも
「知の生成と流通に貢献」するための**新規事業の創造**により、3つの主要戦略テーマの推進を加速し、
将来に亘る持続的な成長基盤を構築する

① 新規事業開発の方針

当社グループの強みである「**知のキュレーション**」を時代に合わせて変革し、引き続き顧客への提供価値とする



デジタル技術を活用して、膨大な量のコンテンツを、培ってきた目利きの力で選定し、最適な形でユーザーに届ける

IV. 戦略テーマを促進する新規事業開発

②新規事業の具体的領域

大学向け教育DX支援

大学授業のDXニーズに、教材開発から学習進捗管理などをシームレスなサービスで提供する

社会人オンライン学習

大学や研究者との深い繋がりやブランド力を活かした、オンラインでの学びの場の提供

リサーチDXサービス

専門領域のリサーチ（調査）業務を、デジタルコンテンツを用いて効率化するデータベース事業やサブスクリプションサービス

2024年1月期の事業化を目指して取り組みを開始

依然として厳しい環境の中ですが、
当社は経営理念のもと、
これらの施策を中心に、地域・社会への
貢献と収益力の向上に
努めてまいります

グループ経営理念

価値観

知は社会の礎である

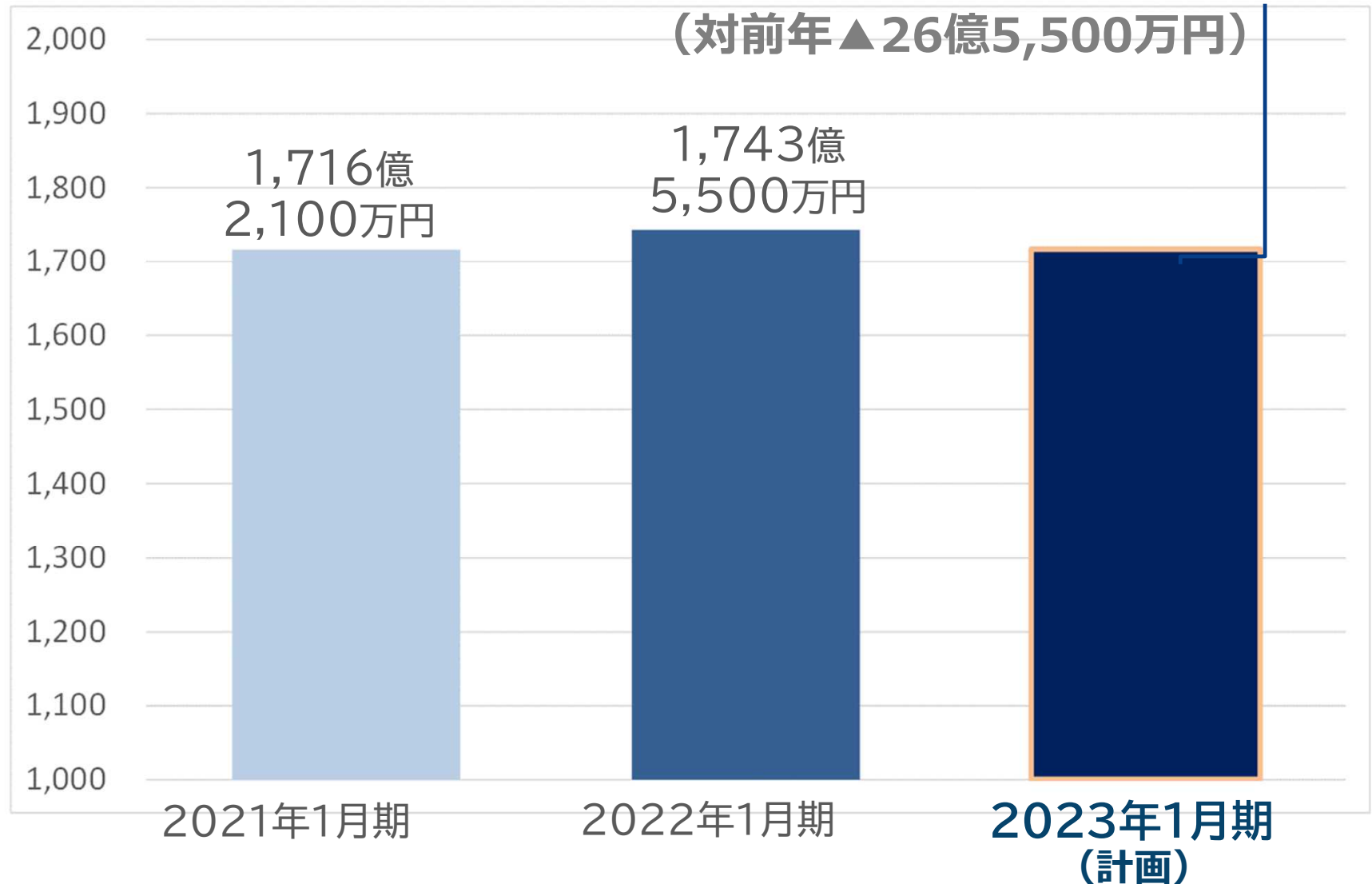
ビジョン

知の生成と流通に革新をもたらす
企業集団となる

(億円)

売上高 1,717億円

(対前年▲26億5,500万円)

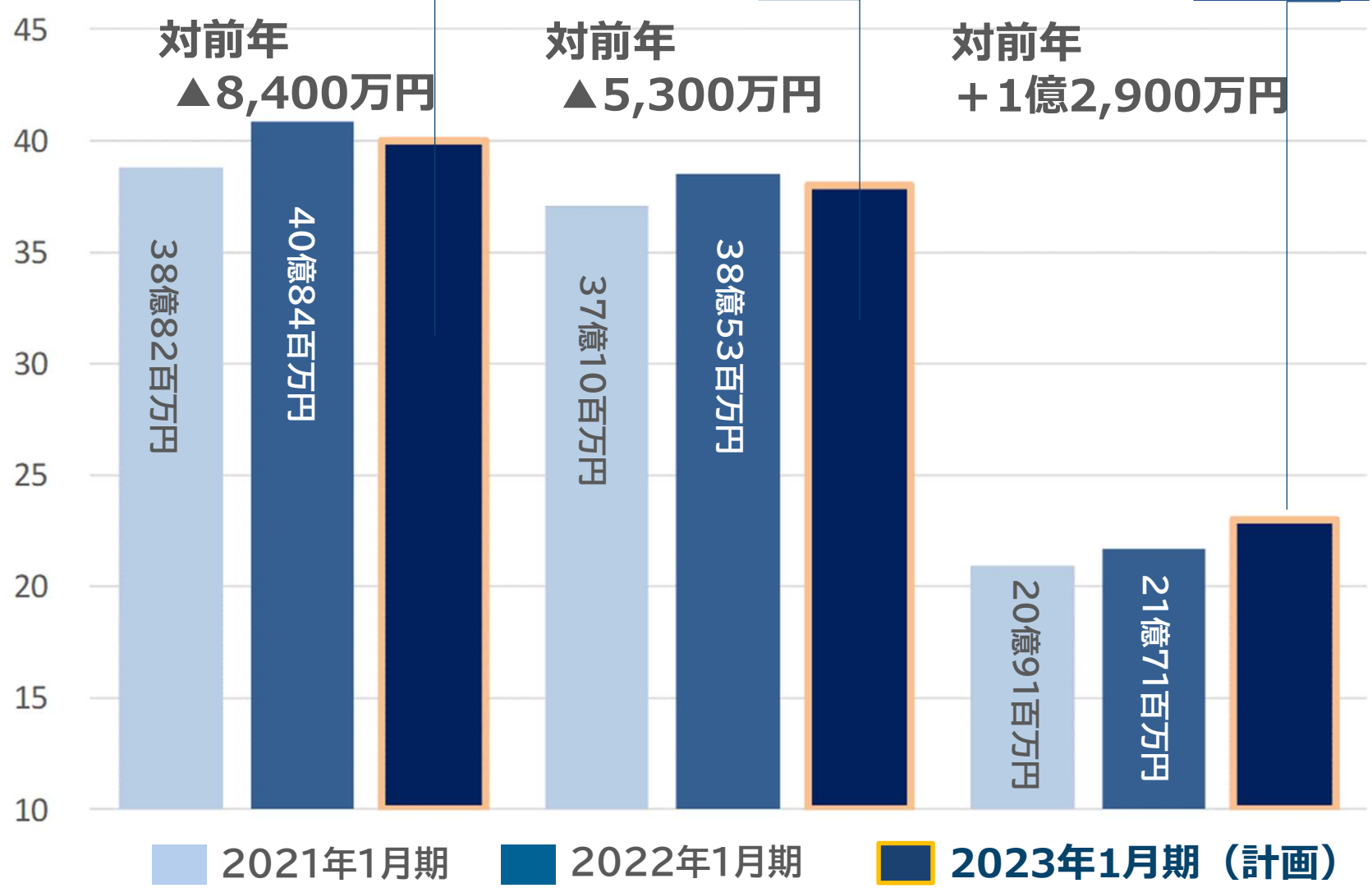


営業利益 40億円

経常利益 38億円

親会社株主に帰属する 当期純利益 23億円

(億円)



**以上、対処すべき課題について
ご説明申し上げます**

続いて、

- ◆ **SDGsへの取り組み**
- ◆ **株式市場区分の再編**

の2点についてご説明いたします

SDGsへの取り組み：基本的な考え方



当社グループは「知は社会の礎である」という共通の価値観のもと、「知の生成と流通に革新をもたらす企業集団となる」というグループビジョンを掲げています
知の生成や流通に関わるみなさまと共に、知を求めるすべての人々への接点を拡大し、知を中心とした持続可能な社会の形成に貢献してまいります

経営
理念

価値観：
知は社会の礎である

グループ
ビジョン

知の生成と流通に
革新をもたらす
企業集団となる

+

知のインフラを支える企業集団の
責務としての持続可能性

サステナビリティ委員会を社内に設置し
経営理念、グループビジョン、
そして持続可能性の視点から
基本方針と目指すべきゴール設定を検討

株式市場区分の再編：①4月4日より再編

東京証券取引所の4つの市場区分が、各市場の**コンセプト**をより明確にし、投資家の利便性向上を目的に、本年4月4日再編

従前の市場区分

市場第一部

市場第二部

マザーズ

JASDAQ

スタンダード

グロース

新市場区分のコンセプト

プライム市場

グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向け

スタンダード市場

日本の中核企業として十分な流動性とガバナンス水準を備え、国内をベースに安定的な経営をしている企業向け

グロース市場

高い成長可能性を有する企業向け

上場維持基準への適合状況（2次判定）

【プライム市場】 流通株式時価総額、1日当たり売買高、
流通株式比率が未達

【スタンダード市場】 いずれの上場維持基準も満たす

この判定結果を受けて、

当社が選択すべき市場について、スタンダード市場
選択か、基準達成の計画書を提出してプライム市場
選択かを、**自社の戦略や各市場のコンセプト**を踏ま
えて慎重に検討

自事業業の特性の検証

- 事業面では国内の出版コンテンツ流通や教育市場が戦略の中心
- その戦略遂行にあたって、海外を含めた市場からの大きな資金調達
の必要性は現時点では小さく、海外投資家への認知やコミュニケーションの優先度もさほど高くない

メリット・デメリットの検証

- スタンダード市場を選択した場合の人材採用・資金調達条件の影響
- 市場選択による株価影響の違い
- プライム市場を選択した場合の上場維持コスト増加見通し

当社グループに見合った資本構成やガバナンス水準を維持・向上させていくことが、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するとの認識のもと、最も親和性の高い**スタンダード市場**を選択

**今後ともご指導 ご鞭撻を賜りたく
宜しくお願い申し上げます**

第12期 定時株主総会

**本総会でご審議いただく
議案の概要 ご説明**

第1号議案

剰余金の処分の件

【参考書類：5ページ】

第2号議案

定款一部変更の件

【参考書類：6ページ～7ページ】

第3号議案

取締役

(監査等委員である取締役を除く)

5名選任の件

【参考書類：8ページ～11ページ】

第4号議案

監査等委員である取締役

4名選任の件

【参考書類：12ページ～15ページ】

第12期 定時株主総会

議案の採決

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 定款一部変更の件

**第3号議案 取締役（監査等委員を除く）
5名選任の件**

**第4号議案 監査等委員である取締役
4名選任の件**

第12期 定時株主総会



MARUZEN CHI
Holdings